

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年7月8日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.28】

奇怪な九州労大量脱退事件から革マル問題を検証！

検証を通じて、どうも1991年頃から革マル派内において、党中央（主流派）とJR革マル派との間で、運動方針を巡る「対立」が発生し、JR革マル派では革マル派機関紙（解放）の購読拒否、カンパの上納停止が行われたことがわかってきた。そもそも、革マル派がことさらに関与しようとすること自体が不自然で、むしろJR総連・東労組への同派の浸透の疑念が高まると考えるのが普通だ。本号からは、両者の関係を疑わせる、2000年に発生した「九州労大量脱退事件」と「坂入氏拉致監禁事件」を検証したい。

「九州労大量脱退事件」とは、2000年10月5日にJR総連参加の九州労(924名)から、組織の7割を超える651名の組合員が突如脱退(17日、さらに86名が脱退)し、JR九州労組(JR連合)に加入届を提出した、常識では考えられない奇怪な事件である。JR九州労組はこの加入届を返却して個別に加入を呼び掛けることとし、結局、脱退者が新たに「九州ユニオン」を結成(2001年11月)してJR総連に加盟、残る九州労も合流した。なお九州ユニオンは、この事件の経過や対応などを巡ってJR総連と対立、2006年2月に彼らから脱退(JR総連は2007年6月に九州ユニオンを除名)し、現在はJR九州内にJR総連の組織は存在しない。そして、この事件をきっかけに「坂入事件」が発生したのだ。

過激派張りの東労組の糾弾声明！なぜか内ゲバ事件にも言及

事件の内容に立ち入ると大量の紙面を要するので、事件と革マル派との関係に絞って検証したい。事件発生後、JR総連や傘下の各組合は相次いで大量脱退を糾弾したが、その中から東労組の声明を紹介する。とてもまともな労働組合とは思えない異様な文章である。

九州労からの大量脱退 = JR総連組織破壊を怒りを持って弾劾する！ = 国鉄改革の苦闘を踏みにじる暴挙を許さずただちに反撃のたたかいを！ = 【2000年10月7日】

JR総連・JR東労組に結集するすべての組合員に怒りを込めて訴える！ 10月6日、JR九州労において、600名を越える集団脱退が発覚した。 - (中略) - 組織破壊の首謀者どもは、脱退の理由を「JR九州労の独善的な組織運営」対決型労使関係からの脱却「革マル疑惑」などとあげつらい、養殖組合に屈服と忠誠を誓い、葛西らの下女として生きる道を選んだ。 - (中略) - かかる事態は、JR総連・JR東労組への敵対行為であり、組織破壊攻撃である。われわれは怒りを持って弾劾するものである。 われわれは、国鉄改革を推し進めるにあたって、故松下高崎地本委員長をはじめとして、何人ものリーダーを傷つけられ虐殺され失った。しかし多くの仲間達はそのことをのりこえ、派遣、出向、若年退職、民間公的部門への転出、広域異動と汗と涙を流して国鉄改革と我々の未来のためにたたかい抜いてきた。 この仲間達の犠牲と苦闘の上に、わがJR総連・JR東労組は団結の旗をうち振るっているのである。 組織破壊者どもよ、われわれのこのたたかいを振り返るがいい！ 養殖組合の下女になり下がった、みすばらしく、醜悪な己の姿が見えるだろう！ 組織破壊者どもよ、覚えておろくがいい！ 権力者に屈服と忠誠を誓う者に未来などない。戦争推進集団とともに暗黒の闇に沈むだけである！ われわれは、この組織破壊者どもを絶対に許しはしない。全力でこの組織破壊攻撃を粉碎するものである。 JR東労組のすべての職場から、組織破壊攻撃弾劾の怒りの声をあげようではないか！ - (後略) -